

認定看護師の役割と活動

第4回 『がん性疼痛看護認定看護師』

独立行政法人国立病院機構 函館病院

やまむら ふみえ
山村 二三江 様

令和3年1月掲載

「がん」と聞いてイメージする症状の一つに「痛み」が出てくると思っています。痛い、辛い、苦しいなどを少しでも軽減し、穏やかに過ごして頂くため、がん性疼痛看護認定看護師として現在活動しています。がんの痛みには、いくつかの種類のお薬を合わせて緩和していきます。その一つに医療用麻薬があります。「麻薬」と聞くと、「中毒になる」、「最期の手段」、「おかしくなってしまう」など思われる方もいらっしゃると思います。患者さん個々の痛みの程度に合わせて、安全に痛みを緩和し、同時に副作用についても対策をとり、予防できるよう対応しています。現在は痛みを我慢せず、早期から痛みに対する治療を行っています。医療用麻薬を使用する際、患者さんの不安に対しては1つずつ話しを聞きながら対応しています。また、がんの痛みは、身体面だけではなく、精神面や社会的な面、スピリチュアルな面といった、さまざまな面の苦痛があります。患者さんが抱えるさまざまな苦痛に寄り添い、一緒に対

処方法を考えながら患者さんらしい生活ができるようサポートしています。

院内の活動としては、緩和ケアチームの一員として活動しています。主な内容は、がん告知や治療方針の説明などに立ち会い、患者さんやご家族の精神的なダメージに寄り添いながら、医師の説明を正しく理解できるように関わっています。治療している患者さんには、抗がん剤治療や放射線治療の副作用の程度や日常生活への影響を確認し、治療しながら日常生活が送れるようサポートしています。患者さんがどこでどのように過ごしたいかをききながら、家族も含めて環境等を含めて話し合って対応しています。また、がん予防として、検診にも一部関わり、自宅で自己検診ができるよう専門の看護師と共に対応しています。最近では、がん治療と仕事の両立ができるよう療養就労支援チームの一員としても関わっています。

院外の活動としては、市内のがん関連の認定看護師が集まり、各施設での取り組みや活動報告などを行い、情報共有をしています。また、年に1度、市内の病院の看護師さんへの勉強会として「がん看護研究会」を開催し、がん看護の充実を目的に取り組んでいます。

地域にはがん看護に関連した仲間が沢山います。患者さんやご家族

が安心して治療や療養できるよう努めていきます。よろしくお願いいたします。

●現在、函館市内では下記の病院に在職しています●

国立病院機構函館病院・函館五稜郭病院